

平成25年【第3回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3ヶ月に1回)実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成25年8月(次回調査は平成25年11月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近3ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 77.1%(118名/153名) <前回 79.1%(平成25年5月)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	80	67.8%
女性	38	32.2%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	36	30.5%
沿岸南部	82	69.5%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	23	19.5%
40歳代	34	28.8%
50歳代	39	33.1%
60歳以上	22	18.6%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	61	51.7%
被害なし	50	42.4%
不明	7	5.9%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)
46名(39.0%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)
34名(28.8%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者)
38名(32.2%)

■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町
- 沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

※ この調査は、調査結果の集計、分析について、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が7.0%と前回(4.2%)を2.8ポイント上回ったが、「回復した」「やや回復した」の合計は42.7%と前回(49.6%)を6.9ポイント下回った。

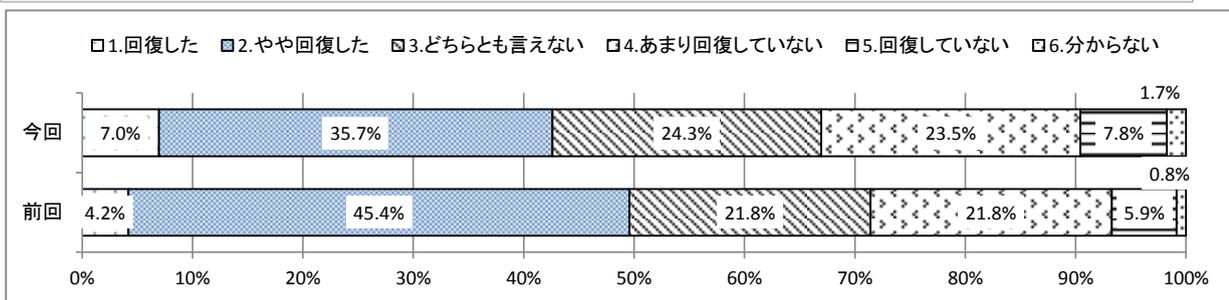
○地域別では、沿岸北部で「回復した」「やや回復した」の合計が60.0%と前回(59.0%)を1.0ポイント上回ったのに対し、沿岸南部では「回復した」が5.0%(前回0.0%)となったものの、「回復した」「やや回復した」の合計は、35.0%と前回(45.0%)を10.0ポイント下回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が42.1%と前回(40.4%)を1.7ポイント上回った。

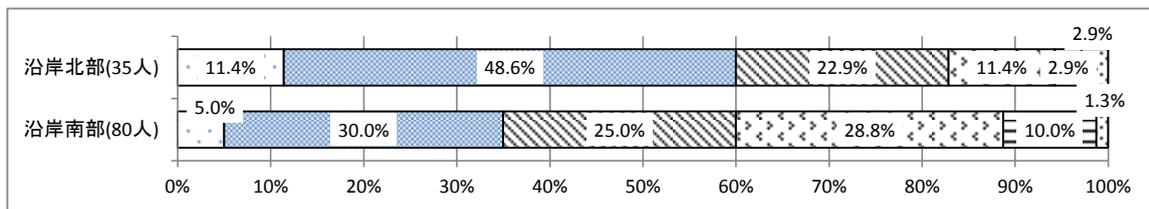
災害公営住宅の着工・完成・入居開始を肯定的に評価する回答がある一方、入居できなかった人が取り残されていることを懸念する等、生活環境の格差拡大を感じるという意見も、前回に引き続き多く見られた。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

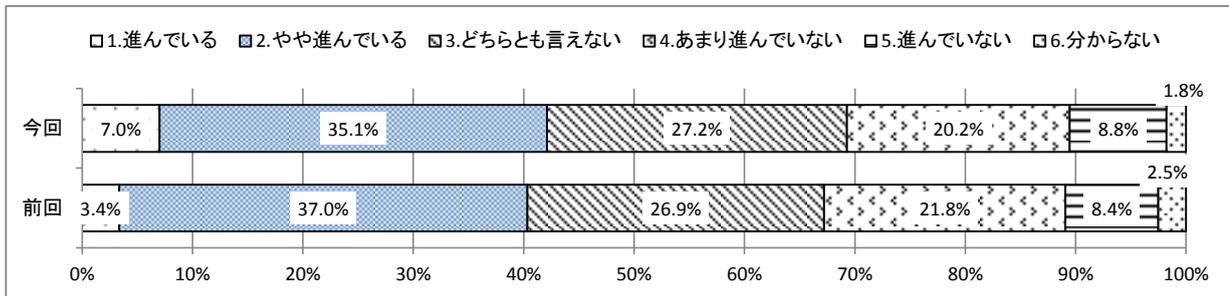


地域別

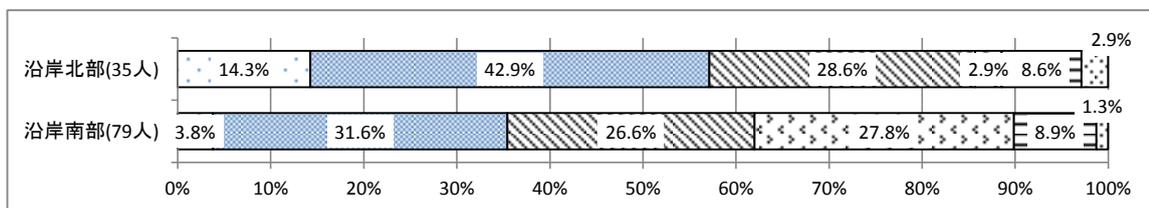


② 直近3ヶ月間(概ね6月から8月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



*凡例内の () は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<p>◆当町においては、被災者に対しての住宅が8月中に完成し、引き続き防災センターの再建など、被災者はもとより、地域住民に対しての設備や施設整備が確実に進んでいる。一般生活に対しての回復は、進んでいると思う。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<p>◆災害公営住宅も一部完成し、入居が始まっている。被災した事業者の新店舗建設も始まっており、復興を視覚的にも感じられるようになってきた。雇用についても、人手不足となっており、求人情報が増加しているように感じる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆波の来なかった土地に住宅の再建をしているのが沢山出来ているし、町営住宅も一番早い人でこの8月から入れる状態にまでなりましたので、自分自身も家の再建をあせている今日このごろです。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆被災のことを前向きに話せるようになった。行政をはじめとする周りの方々のお陰で前向きな気持ちになれている。周囲も明るい感じが戻つつある。これからも復興に向けてがんばりましょう!!(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆住環境が仮設住宅という以外は、生活リズムもできている。復興住宅も入居が始まったが、入居できなかった人、自力再建を目指す人との差がある。自力再建を目指す人のために休耕田を宅地化する支援等を行うべき。(20歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆復興公営住宅が完成し、仮設住宅から家具類など運び出す車の往来を見ると、壁一枚で隣人とのプライバシーをお互い庇い合い、声を潜めた生活から開放されると嬉しさを感じます。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆高台移転のための工事のため、ダンプがひっきりなしに走っていて復興が進んでいるように感じるが、交通量が増えて住民の歩行等が危険だと思う時もある。仮設住宅にも慣れてきて近所同士での交流もふえている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆生活できる程度に回復した人は増加したが、当市では土地の高騰など資金不足で困っている人が多数いる。他方、資産がある人は次々とアパートや自宅を新築している。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆震災後2年4ヶ月を経て被災者の心は落ち着きを取り戻しているが、支援が薄くなっていくことを不安に思う方もいる。市・町全体の将来像がまだ見えないため自立への気持ちが充実しないという方もいる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆この町には、災害公営住宅が建っていない。「住む家」「仕事」に希望を持ってない今、「生きるための気力」を失いつつあるように感じる。学校現場で感じることは、保護者の離婚が多くなってきていることである。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆「慣れ」しているだけで、生活の変化、回復は実感することはあまりない。ご近所同士でプランターの野菜を育てたり、声をかけあったりし、以前より周りの方々とのつながりを深めようとしている感じはある。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆高台に移転し、住宅を新築したいと考えている方々の希望を早く実現する為、関係機関は頑張っているものと思われませんが、高台移転工事がなかなか見えてきません。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆災害公営住宅の予定地、1ヶ所は至急入居したい人(高齢者・病弱者等)の為に住民の要望の場所。もう1ヶ所は防集の団地より少し離れている所で浸水区域内だ。「津波が来た所なのでいやだ」という人もいる。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆子どもたちが安全に遊べる場所がない。子どもたちに対するボランティアの方も休み中は多く来ているようだが、なかなか周知されていない。仮設診療所は夕方や土日、お盆中等も診療していただき、とてもありがたい。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆再建しようとするいろんなことがあり、進まないし、高台の土地がまた延び、7か月も延びた。説明が足りない。質問をすると「係が違う」と答えない。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆仮設に家族とバラバラになり1人入居している高齢者も多く、集会所でのイベントにも参加しなくなっている。被災した町方は見渡す限り雑草が生い茂り、このまま見捨てられるのではないのかと思われる。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 急急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が44.4%と前回(41.6%)を2.8ポイント上回った。

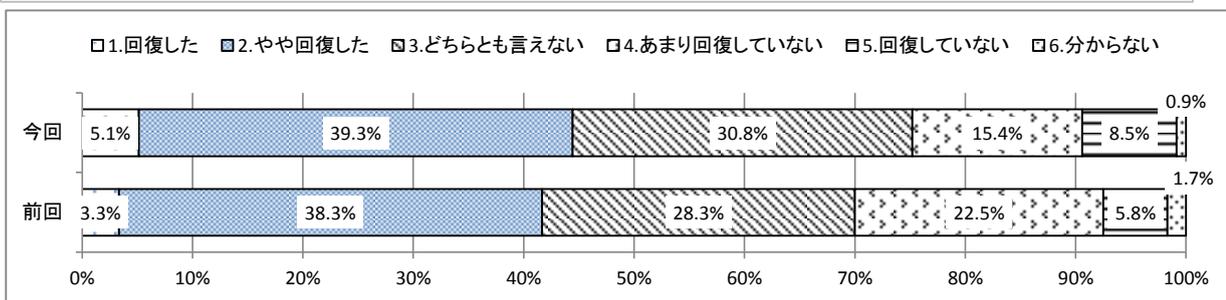
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計が、沿岸北部では51.5%と前回(46.2%)を5.3ポイント、沿岸南部では41.5%と前回(39.5%)を2.0ポイント、それぞれ上回った。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況は、「やや進んでいる」の割合が33.3%と最も高く、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は39.4%と前回(35.0%)を4.4ポイント上回った。

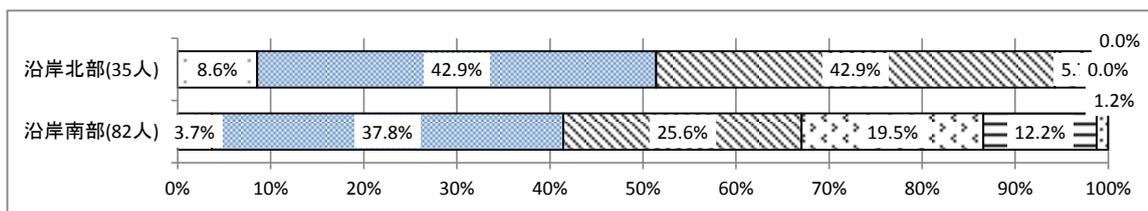
水産業の復興や建設業の好況、「あまちゃん」効果による観光業の好況を前向きに評価する意見が目立つ一方、大型店の進出による仮設商店等への打撃を懸念する声も多かった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

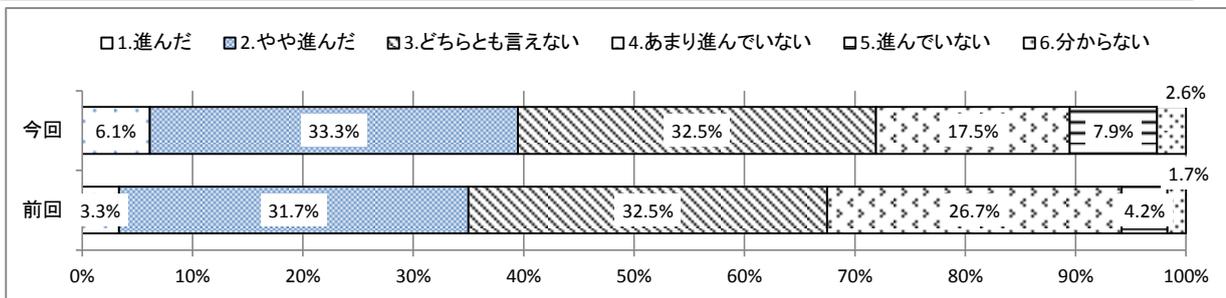


地域別

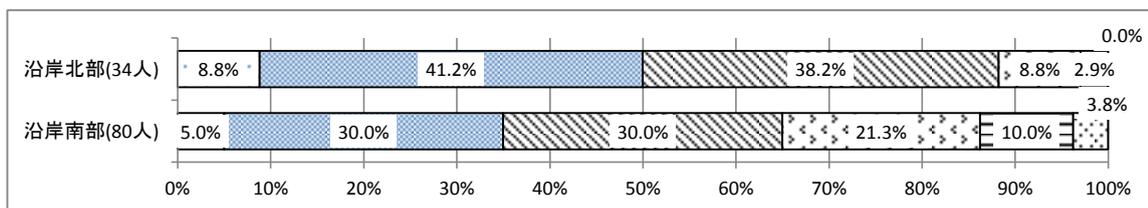


② 直近3ヶ月間(概ね6月から8月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



*凡例内の () は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	◆TV「あまちゃん」の効果、県内ニュースをみると観光客の数がすごい。私の地元も、徐々に漁業施設が立派になっているように感じる。(20歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	◆ワカメ、ホタテガイの浅海養殖業が、復旧復興されてきた。カキの養殖にあつては、来年度生産が予定されている。但し、大破壊された漁港船揚場などの整備が遅れている。早期の復旧復興が望まれている。(70歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆建設業・建築業が仕事で忙しそうだ。民宿業の再開、商店会も仮設ながら頑張っている。漁業はホタテ養殖作業が始まったこと、ウニ漁の開口で漁家の収入もあった。釣り船も活発で収入増となっている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆漁業協同組合も新組合が設立され、漁業者の方々もワカメ、ホタテ、ウニ等作業が始まり、前の生活に戻りつつあると思われる。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆サケふ化場が完成し、アワビ養殖施設ももうすぐ完成しようとしているため。(30歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆近くにスーパーが建つとウワサになって2年近くになりますが、ようやく今月から工事が始まりました。一番雇用につながるのでいろいろな事業をしてもらいたいです。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性) ◆建築、建設業を中心に大変活気がある。また、「あまちゃん」効果か、道の駅にもだいぶ車が立ち寄っています。水産業の養殖が再開し、順調にいけば来年あたりからたくさんのお荷ができてさうだということです。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)
「3.どちらとも言えない」 の理由	◆建設業は復旧復興需要を取り込み好況を呈しているが、その他は変化なし。むしろ大手資本の進出により、町内小売業者は影響を受ける(廃業等)可能性も高い。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆求人数・求人倍率とも被災前には考えられない数字となっている。「いくら募集しても人がさっぱり集まらない」という事業所の声があったが、今はあきらめて高校新卒者へ狙いを絞っているように感じる。(60歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆民有地に建つ仮設商店街の中には、自治体と地権者との土地賃貸契約が更新されない見通しとなって、今月中に移転するよう求められた店もある。仮設店舗に資金をかけた被災事業者が苦境に立たされている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆最近、仮設店舗の飲食店でお昼を食べていると大型バスがやって来た。多くの人が足を運んでくれているのだと感じたが、仮設店舗では大勢を受け入れられず断っていた。(20歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆仮設店舗のお客さんは増えていない。車で5分位の隣町に大型のスーパーができて、たくさんの方が入っている。中心部で何かイベントがある時は人もたくさん集まるようだが、仮設住宅が遠いところにあるため、高齢者は思うように行けない。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	◆今、地元の大きな問題は、人手不足と土地の高騰(含、資材や工賃)。労働者の引き抜きが発生し、それが工賃(人件費)の高騰につながっている。その為、仕事があっても断り、お客様に迷惑をかけている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆商店街のほとんどの人が市の計画の予定地に出店せず他のところで商売を始めている。大型店は多くなってきているが、地元の店がどうなっていくか心配です。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性) ◆業種によって差があり、仮設商店街で商売をしている小売店で、販売不振で、規模を縮小するところも見られる。また賃金格差もあり、従業員が思うように集まらない傾向も見られる。来春から、大手スーパーが進出し、消費者にとっては喜ばしい話だが、小売店への影響が懸念される。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	◆いまだに仮設店舗で営業しているので以前の店々がどこで営業しているのかわからない。山奥の小さな仮設集落に2、3軒で仮設商店街を作った商店は復活は大変だと思う。仮設商店街で夜市を催されたが、以前の賑いは無い。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
産業・経済・雇用関連：漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりについては、「達成した」「やや達成した」の合計が15.6%と前回(12.6%)を3.0ポイント上回り、「達成していない」「あまり達成していない」の合計は54.0%と前回(61.3%)を7.3ポイント下回った。

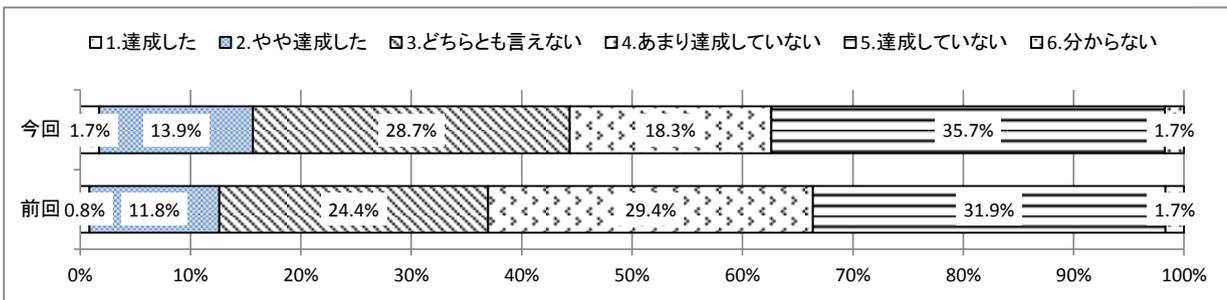
○地域別では、沿岸北部は「どちらとも言えない」(42.9%)が最も高く、沿岸南部は「達成していない」(46.3%)が最も高い。

○直近3ヶ月の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が24.6%と前回(20.2%)を4.4ポイント上回り、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は48.2%と前回(53.0%)を4.8ポイント下回った。

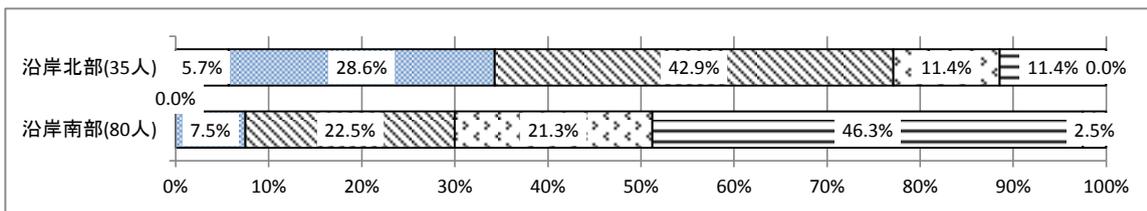
防潮堤の早期復旧・整備を望む声や防災意識の低下を指摘する意見のほか、雨水対策への不安を訴える声も多かった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

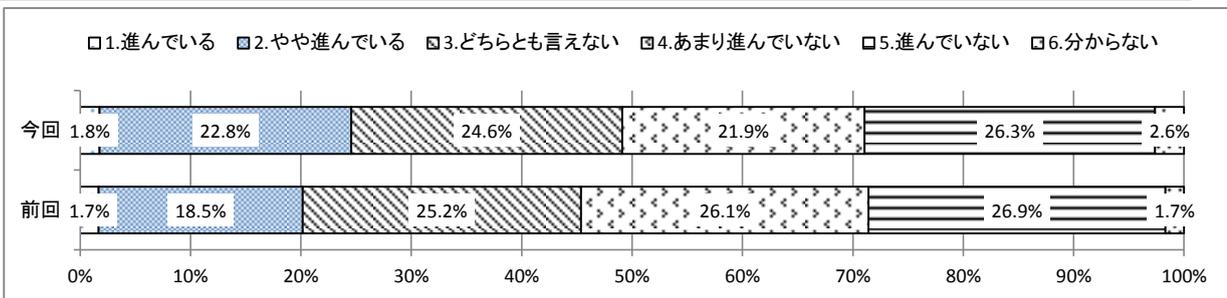


地域別

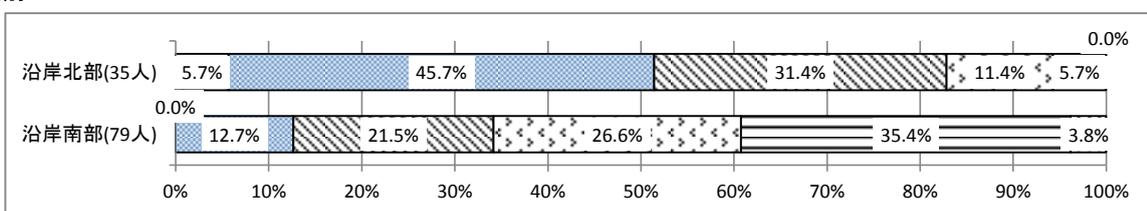


② 直近3ヶ月間(概ね6月から8月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



*凡例内の () は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆新しく計画された2つの堤防の1つが着工され、完成間近となりつつあり、もう1つの用地の買収も完了し着工を待つばかりとなったようである。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆まだ防潮堤等の工事の途中ではあるが、安全なまちづくりのために村が行おうとしていることは浮きぼりになってきたように感じます。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆高台の造成が急ピッチで進められている。災害公営住宅も一部入居が始まり、更に2箇所目の建築も進められている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆防災等の市の取り組みは形になってきた。教育現場での研修会や実践も積極的に行われるようになった。しかし、市民の防災意識はまだまだ低い。震災、津波の教訓は将来に語り継がれないのではないかと心配である。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆6月に災害対応マニュアル(町の)が配布され避難所に指定されている学校としては安心している。しかし、災害に強いまちづくりは、10年後、20年後を想定しては不安である。防波堤を早期に改修すべき。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆津波に対する避難経路マニュアルが作成され、いざとなったとき住民はどう行動するか、かなり周知されている。一方、防潮堤の再建工事が本格化しているが、土台の工事段階なので、その先の海がまる見えです。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆震災を契機に行政を中心に地域防災連携の機運が高まりつつある。良い傾向だと思う。一方で、時間が経過するとともに住民の間であの震災が遠くなりつつあるような気がしている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆身近な下水道の整備はまだ整っていないように感じる。高潮の時は道路が浸水し、また、雨が降れば、道路に水があふれ排水が悪い。街路灯はLEDを使用した明るいものに変わり、防犯上とても良好だ。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆時間の経過と共に危機意識が低下しているように感じる。避難しやすいまちづくりが求められていると思うが、被災前と同じような所に建物が建てられ、道も特に広くもなっていないように思う。(60歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆岸壁の嵩上げは少しずつ出来ているが、人手不足の為か進行が遅い、高潮のときは海水があふれてくる。防潮堤は全く進んでいない、国、県、町と管轄があるため、工事が進まないのではないかと。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆昨日の大雨で、市街で大規模な冠水が起こったり、交通が遮断されたり、床下・床上浸水が発生した。山をくずしている影響なのか、以前では考えられない所や川が増水した。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆各自自治体は復興計画の中で防潮堤の高さを決めているが、当市の場合、住民の了解の元に堤防高を決めたとしているようであるが、市民の大方は堤防高の決定についてのプロセスがなく、不満を持っている。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆雨による増水での対策が全然出来ていないと思う。少しの雨、短時間での雨による冠水が目立つ。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆ハッキリ言いまして、何をやっているのかと思います。安全なまちづくりというのはハード面だけではないと思います。サッパリ案内板がない。夜間など心配です。道路管理者と防災対策室の緊急点検が必要だと思います。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆防潮堤整備、手をつけていない。船引場水位が高くなり、のろがついてすべってけがして救急車で病院に行きました。船引場、早期に整備お願いします。(60歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆防潮堤を修復しないで、あまりこわれていない道路とかを修復しています。早く防潮堤を修復してほしい。(20歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

平成25年【第3回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告書
(平成25年9月)

発行

平成25年9月26日
岩手県 復興局 総務企画課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：いわて復興ネット

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=39696&ik=0&pnp=14>